

協進レター74号

平成24年2月25日

今年の冬は、地球温暖化が原因（矛盾しているように感じる人もいるかもしれませんが）で厳しい寒さが続いています。それでも、ここへきて三寒四温、少しずつ春の気配が感じられるようになって来ました。花粉症の症状が心配な人は、対策済ませていますか？

前号で2012年辰年、私の思い5ヶ条を公表させてもらって、私はその思いを成就すべく、この一年を通して行動する約束をさせていただいたところです。人にはそれぞれ「考え方」があって、その人の行動（人生）に大きな影響を及ぼしています。

人は「何が良いことなのか」を考えて、それによって行動を決定していますが、その「良いこと」の価値基準が人によって様々に異なります。そうは言っても、日本人の根底にある倫理観みたいなものには共通のものがあります。

日本人の倫理観は、自然を愛した古代日本人の心情が基調となっています。現代でも、山や川、滝、海、太陽や月、土地や水を神と祭って、手を合わせて感謝の意を表している私達です。

その後の時代背景と相まって、いろいろな説明がされていますが、日本人の共通な倫理観は、今も昔も、私も貴方も、そんなに変わりはありません。どうでしょう？

- ① 古代日本においては、天照大神等の神話で承知のように太陽を崇拜し、自然と共に生きる大らかな考え方が、倫理観の中心でした。
- ② 今NHKの大河ドラマで、平清盛が放送されていますが、この時代になると、鎮護国家として国家を治めるようになり、当時の宋から入って来る仏教思想が人々の倫理観に大きな影響を与えていきました。
- ③ 江戸時代になると平和が長く続き、やはり大陸から入ってきた儒教中心に仏教や神学等が影響し合っ、て、人々の倫理観が形成されていきました。

武士道においては、「努力」や「忍耐」といった修行的性格のものを美德としましたし、庶民の間には、「石門心学」みたいな商人道徳が栄え、町人としての経験を踏まえた倫理観が浸透してきました。

- ④ 明治時代になると、西洋文化の価値観が多く移入し、思想的混乱期をむかえることになり、日本人の生き方として倫理観を明確にする必要が叫ばれました。そこで明治政府は、教育勅語を創って日本人の倫理観として学校で教えるようになりました。私達の父母世代までは、この価値基準を共有しています。
- ⑤ 戦後においては、アメリカナイズされた思想が、日本人の伝統的道徳を否定するかのよう教育が行われ、私達世代はそんな教育を受けています。しかし、私はいつの間にか無意識のうちに、伝統的道徳に従って行動しています。一方、現代においてはこのアメリカナイズされた合理的な倫理観と、日本の伝統的道徳に基づく倫理観とが衝突を繰り返している状態とも言えます。

日本人の倫理観の変遷には素晴らしいものがある半面、それが弱点であるとも言えます。**道徳と孝不幸が必ずしも一致しない**ことです。特に**経済活動**においては、ちょっと道徳に反した方が儲かったりします。儲かることは私達を幸福にするのだから「良いこと」と、すり替えています。

哲学者カントがこんなことを言っています。「人間が行う善悪と孝不幸の一致は、この世において求められない」。生涯どんなに善を行おうと、またどれほど悪を行おうと、幸福になるか不幸になるかは、直接結びつかないと言うのです。

果たして、本当にそうなのでしょうか。絶対に違います。違っていると信じています。

共有できるはずの、日本人が古代から培ってきた、「良いこと」の価値基準をもって、社員の幸福と社会貢献を果たしていく、協進交通にしていきたいと思います。よろしくお願ひします。

最後まで読んでくれて、ありがとうございます。感謝します。